



毎月一回十五日発行(定額一部五錢一年郵税共六十錢)

編輯 松田 小野 兼行
 印刷 井上 柳 梧
 發行所 東京市本町二丁目
 支店 東京市本町二丁目
 支店 東京市本町二丁目
 支店 東京市本町二丁目

滿洲國視察概要(其二)

◎同善堂沿革

清の光緒七年五月左實貴公は私財を投じて現在の堂内に天然痘預防疫製造所を創設された。當時省民の大半が天然痘の病源地たる山東より移民して是等の來往交通により其病毒傳播し登るゝもの枚擧に遑なく、公は此の惡疫の防遏を期せんことを動機として本堂を開設せられたのである。次いで育嬰所、養老所を設けられ嬰兒の保護、貧民救濟等の社會事業に貢獻されたのである。是れが本堂の濫觴である。萬善同歸の意義あり同善堂と稱せられたのである。

爾來施醫所、幼稚園、小學校、女子實業學校、救濟學校、習藝學校、醫科專門學校等を逐次設立し尙ほ接生(産婆)傳習所を置き、通信機關として民報社を設け更に土木、印刷、毛氈、裁縫、毛布、綿布、紙匣製作の教養工廠を設置し、收容者に對する普通教育は勿論授産授業の教養に努め、亦省會警察廳主管の濟良所を本堂に併合し其他康熙初年江蘇、浙江兩省出身在奉有志の創立に係る小東關所、球林寺の移管を受け、靈柩の保管を爲し且つ供養法會を營んでゐる。

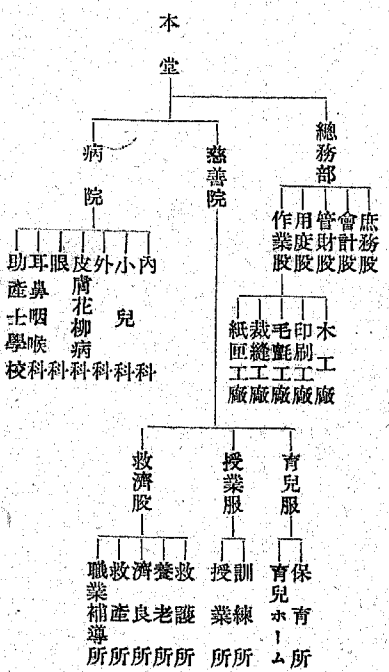
本堂は左實貴公の私財を以て設立せられ爾後公の徳望に依り蓄積せられ民國初年に於ては既に基本財産として三百萬圓を有し其利子によりて事業經營の資に充當し自給自足他に例なき好状態に在りしが公歿後には舊東北軍閥の支配に移り幾許もなくして基本財産の大部分は軍閥の爲めに擯断せられ經營困難に陥り、醫學專門及女子實業の兩學校を始め民報社、毛布、綿布の教養工廠は閉鎖の止むなきに至り、滿洲事變直前には非常なる困難を來し僅に育兒養老の救濟事業を繼續し

居りたるの悲境にあつたのである。

滿洲事變直後、時の關東軍司令官本庄閣下は板垣參謀長を伴はれ本堂を巡視せられ左實貴公の事業に贊同せられ授産助成金として多額の寄附を申出され基本財産の管理經營方法に就き指導された。本堂財産の管理は一時奉天市公署に移されたが康徳三年七月一日市制發布と同時に市公署より移管せられ基本財産九十九萬圓を以て財團法人として獨立したのである。是と同時に大に改善が行はれた。新に五ヶ年計劃の下に舊軍閥によりて失はれたる基本財産の調整回収に着手し、各方面の理解によりて二ヶ年以内に基本財産三百萬圓に復活した。本堂は六十年の歴史を有し其間幾多の變遷を辿り來たが、康徳三年七月一日に財團法人に改組せられて一大革新を見たるものである。

◎同善堂の組織

本堂は次の如き部門より成つて居る。以上の多種の部門中主なるものに就き



運動用具 化學藥品 理化學器具 計量器具 度量器具 掛圖全般

信濃教育品株式會社

東京本店 電話日本橋(2)六六六番
 長野支店 電話二七三四番
 上野支店 電話一四一四番
 松本支店 電話五七三番

現代乾藪機界ノ王座

大和式自動輸送乾藪機

製作發賣元 株式會社 大和三光商會

東京京橋區京橋三丁目二番地
 電話 京橋(56) 五三〇〇番
 〃 〃 〃 五二〇〇番
 〃 〃 〃 五一〇〇番

營業課目
 特許大和式自動輸送乾燥機
 特許大和式自動人絹乾燥機
 特許帶川三光式乾燥裝置
 特許やま十木式裝置
 特許サンコー式濾過淨水器
 特許サンコー式廢湯吸熱器
 特許サンコー式高壓ポンプ
 特許サンコー式トランプ

鈴蘭香る 高原へ

春……鈴蘭狩り
 夏……ハイキング
 秋……キャンプ場
 冬……スキー

スキーコース、宿泊等は御問ひ合せ次第御回答致します

千曲會指定旅館

信越線上田駅前 上村館 電話上田344
 長野縣菅平高原 菅平ホテル 電話菅平局1番
 長野縣菅平高原 鐵道省山の家 電話菅平局呼出

様になつたのである。此の如くして嬰兒は哺育が續けられ離乳と同時に育児ホムムに移され代母に依りて養育せられ命名せられ學齡に達するや小學堂に於て四ヶ年の普通教育を受け更に各人の健康性能に應じて本堂内附屬各工廠に徒弟として修業せしめ技術が授けらるゝのである。此間相當なる家庭に於て養育せしむるの多額の看護婦によりて養育せられ居り、又木工、印刷、毛氈、裁縫、紙匠等の工廠に於ては多くの生徒が先生によりて教養せられつゝあるを見、一社會が本堂内に開展せる様に感ぜられ深き感に打たれた。

濟良所本所は養育婦が抱主の虐待に耐へ兼ね或は家庭の不和又は夫婦喧嘩の結果本堂に保護を求め來れる者を收容し是れを教育する所である。此等收容したる婦女に對し出所後一家の主婦として耻しからざる様普通教育は勿論特別に訓育を施し同時に家事裁縫、ミシン、手藝等を教習せしむるのである。其の結果本堂收容婦女は社會より好感を以て迎へられ相當の家庭より多數求婚の申込あり、其の際に申込者の身元を嚴重に調査し適當なりと認めたる場合係員立會の上見合を行ひ雙方同意して始めて結婚せしめる。夫婦喧嘩に依るものは夫の許に復讐せしむる方針の下に訓育を施し居り殆んど六ヶ月以内には雙方改心して圓滿に解決するを謂ふ。

家庭不和より來れる子女は二年乃至五年間位其の教養を努め相當の家庭に嫁せしむるのである。養育婦の場合には前借の關係あるを以て本堂に收容すると同時に詳細に法院並に關係者に通報する、此の際抱主側は法院に訴訟するを常とするも其の結果虐待の事實明かなる場合は自由廢業を認められ結婚する等の場合抱主に對する前借關係は各婚約者の負擔として夫々接衝して圓滿に解決せしめらる。

額を賞與して當人に交付し艱草其の他嗜好品を採らせてゐる。救産所分娩の資なき者或は未亡人若くは未婚者に對して外聞を憚かる妊産婦に於て助産保護を求めたる者を收容す。收容者に對しては原籍、住所、氏名、妊娠關係等は一切觸るゝことを避け無條件にて保護分娩せしむ。是れ創始者の如き目的が現在諸外國に於ける授産所の如き産婦を救済する目的のものとの其の主旨を異にし本救産所は未來に於ける人間を保護する事業として現在體內にありて未だ此の世に出でざる胎兒の保護を主眼として設置せられたのである。出産後は慣習等の例外を除いた外二ヶ月間は自らの母乳を以て養育し期間經過後嬰兒は本堂保育所に移し本人のみ出所するのである。作業所普通教育終了者並に民家の子女にして本堂作業所の徒弟志望の者に一定の技術を習得せしめ模範職工として社會に活動せしむるを以て目的とする所謂職業學校に準ずべき授産所である。

現在木工、瓦工、塗工、印刷工、裁縫、毛氈、紙匠、封筒紙等の八工場に分れ夫々専門の技術員をして之が指導の任に當らしむるのである。木工、印刷の如きは特に優良にして康徳五年度の如きは年額二十餘萬圓の製作品を〇〇軍倉庫に納入するに至つたのである。是により徒弟の技術著しく向上し尙精神訓育上多大の効果を收めたのである。著者の視察したる場合も多數の徒弟が熱心に仕事をなしたつた。

著者は本堂を訪問して特に感ぜらるゝのは左實貴公の人物の偉大である。今より六十年前と謂へば滿洲は全く今日とは異りて馬賊横行、人道も類廢してゐた時と考へらる。此時に當つて人の子を哺育して是れを善導し職を授けて一人前に教育して世に盡さしめんと謂ふことを考へ、莫大なる私財を投じて實行に移されたと謂ふ氣持は全く我八紘一宇の精神にてある。此の如き偉大なる人物が我彈丸にて實に戦争の悲哀である。返すがへすも残念なる次第である。左實貴公の此大なる遺業が衰滅に歸せんとする時我本庄開

(八) 滿洲農業開拓民

イ、一般狀況

滿洲農業開拓民は内地の膨張せんとする農民を人口稀薄なる滿洲の地に入植し勤勞生活を以て四隣に範を垂れ原住民と和合して民族協和、日滿不可分關係を實現せしめんとする企にして日滿兩國の策として實に重大使命を有するものである。著者が本旅行中佳木斯より牡丹江、圖們吉林及通化を経たは主として開拓民の狀況を視察する爲めであつた。

開拓民入植の計畫は二十年百萬戸入植せしむるものであつて、昭和七年(大同元年)より昭和十八年(康徳二年)迄に入植したるもの約千八百戸、昭和十九年(康徳三年)八月に二十ヶ年百萬戸の計畫を樹立し昭和二十二年(康徳四年)より其實施に着手したのである。開拓民は其入植の形態によりて集團、集合及分散の三つに分ちて居る。開拓地の經營は先遣隊の入植に初まり團共同經營及部落共同經營の道程を経て數年に於て個人經營に至るを常とする。個人に分割せらるる土地は毎戸可耕地一〇畝(内水田一畝)の外總有の放牧採草地及薪炭備林地若干とす。

開拓民の年齢は第一次より第三次開拓に於ける廣徳六年(昭和十四年)の作付面積は集團開拓民合計三萬九千九百、集合開拓民合計六千六百なり。以上は日本内地農業開拓團であるが此外に青少年義勇軍がある。

ハ、半島人開拓民

朝鮮農民の滿洲移住は已に三百年以前より行はれ昭和十一年九月滿洲拓植株式會社設立當時在滿半島人は既に五十萬を越へ其大部分は農民であつたのである。滿洲拓植株式會社は鮮農移住に必要な一切の事業を行ふと共に日滿兩國政府に於ては其自發的向上發展を期待し無制限の入植を統制して在滿浮動半島人の安定を圖らし居る。康徳四年(昭和十二年)度より毎年概ね一萬戸を限度として新規入植せしめ統制ある指導援助を行ふことになつて居る。

内地集團農業開拓民の府縣別を見ると次の通りである。

| 開拓民次數 | 府縣數 | 府縣地名 |
|-------|-----|------------------------------------|
| 第一次 | 一六 | 東北(六)、關東(兩毛、茨城)、中部(新潟、長野) |
| 第二次 | 一六 | 東北(岩手、山形)、關東(東京、千葉、茨城)、中部(東海三) |
| 第三次 | 一六 | 東北(宮城、福島、山形)、中部(新潟、長野、山梨、岐阜) |
| 第四次 | 三八 | 全國(高知)、關東(東京、大阪、兵庫、滋賀、島根、廣島、福岡、神戶) |
| 第五次 | 四一 | 全國(大阪、滋賀、奈良、大分、沖繩) |
| 第六次 | 四五 | 全國(沖繩) |
| 第七次 | 四五 | 全國(沖繩) |
| 第八次 | 四五 | 全國(沖繩) |

(九) 開拓關係機關概要

滿洲に於ける開拓事業の機關としては次の様なものがある。開拓總局總務、拓地、招集の三處十科を有し開拓民に關する入植計畫樹立並に認可、開拓民の指導助成に關する事項、開拓民用地の調査、取得整備、未利用地の改良に關する事項等國土開發に關する萬般の事項を掌る。

滿洲拓植公社日滿兩國間に締結せられたる條約に基き康徳四年(昭和十二年)九月一日設立せられたるものにして資本金五千萬圓である。滿洲國政府は康徳二年十二月に資本金三千萬圓を以て滿洲拓植株式會社を設立したのであるが尙ほ更

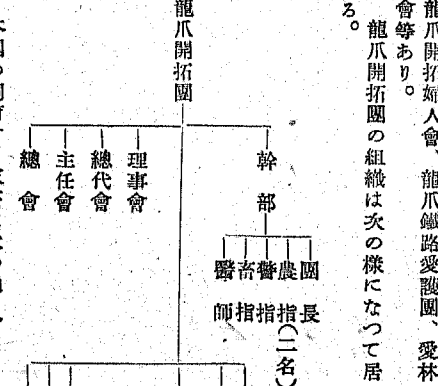
以上の表に示された様に第一次より第三次迄は開拓民送出府縣は全國府縣數の四分の一乃至三分の一に過ぎざりし第四次以降は全國に亘り選出せらるるに到つたのである。然して送出せざる縣は沖繩縣のみである。

に強力なる機關設置の必要を認め本社... 設立を見たのである。 満洲拓植委員会... 公設設立に關する協定書第十四條に依り... 兩國政府より六名宛の委員と七名宛の隨... 行員を任命し公設事務の常設的監督機關... として設立せられたるものである。...

(十) 龍爪開拓團視察記

佳木斯と牡丹江との間に林口と云ふ驛... がある。林口の一つ先の驛が龍爪である。... 此邊一帶に丘陵が起伏し溪流あり内地... 地の風景に似て居る。龍爪にて汽車を降... り。耕地の中に只驛一戸あるのみにて... 周囲に家無し。此驛より五分程歩めば龍... 爪開拓團本部に達す。本部の前面に小山... あり其山頂に神社建立せらる。内地の村... 落の様に樹木の無きは淋しく感ぜらる神... 社も木の無き深山の頂上に立ち何んか... 無く莊嚴の感は無きも如何にも新に開け... たる所であると謂ふ感は深い。團長は不... 在にて副團長により事務所に導びかれて... 團の大要に就きて話を聞く。

七町歩、放牧採草地三五〇町歩である... 本開拓團員は高山、山口、鶴取、島根、... 山形、和歌山、大阪、奈良、京都、滋賀... 兵庫等各地より集合して居る。 團員の學力は尋常科一〇%、高等科卒... 業五〇%、青年學校卒業一五%、中等學... 校卒業一五%である。 本部には穀物加工場、蹄鐵工場、製油... 工場、味噌、醬油醸造工場、金物加工工... 場、畜産場等ありて機械を使用して穀物加工... はなされつゝあり。此點は内地の農村よ... り進歩せる處である。味噌、醬油の如き... ものかなり大概模になされつゝある。 病院は昭和十三年九月完成したのであ... る。病室三、診察室、藥局、研究室、婦... 人科室、手術室等を備へ日滿人共診察を... ならして居る。 龍爪尋常高小學校には兒童一六〇名、... 教員六名あり、尙ほ青年學校、同女子部... 兒童父兄會がある。 龍爪開拓婦人會、龍爪鐵路愛護團、愛林... 會等あり。 龍爪開拓團の組織は次の様になつて居... る。



本團の飼育する家畜は次の通りである... 鮮牛二四三頭、乳牛二三頭、豚(バーク... シヤ)三〇七頭、鶏(レダカン)一五〇〇... 羽、蜜蜂(イタリヤ)一八群、綿羊(コリ... デール)二一〇頭。 本團は四戸を以て一等團となし林口に... 至る一五キロの間に散在して居るのであ... る。本年度は一月當り六〇〇圓の純益を... 得る見込みなりと謂ふ。 本團の人口約九百名にして農業による... 収入は未だ多からざるも將來は確實に發... 展しつゝ行くものと考へられるのであ... る。

Table comparing resources between Japan and Manchuria. Columns: 資源名 (Resource Name), 日本 (Japan), 滿洲 (Manchuria). Rows include 石灰 (Lime), 石油 (Petroleum), 硫黄 (Sulfur), 石炭 (Coal), 銅 (Copper), 鉛 (Lead), 錫 (Tin), 鋅 (Zinc), 鐵 (Iron), 鹽 (Salt), 石膏 (Gypsum), 硝石 (Saltpeter), 芒硝 (Sulphate), 螢石 (Fluorite), 雲母 (Mica), 石棉 (Asbestos), 螢石 (Fluorite), 雲母 (Mica), 石棉 (Asbestos).

向せしむることも已に公主嶺に於て研... 究せられて居り尙ほ柞蠶絲を化學的處理... によりて羊毛化して是れに混する時は特... 殊の優秀なる織維が得らるゝを以て滿洲... の羊毛も大に其品質を優良ならしめるこ... と可能である。 尙ほ滿洲産と内地産とに就き國防上重... 要なる鐵産物に就き比較すれば次の通り... である。

蠶桑講話の話し方 聞き方を讀む

著者高島氏の御厚意か出版元玉研社の... 御配慮かいづれかは知らないが標記の書... 物をつい此間寄贈された。自分は蠶桑を... 習ひながら既に其業と隔れる事致に二十... 年の餘になる。高島氏は年來の親交あ... り且は故里こひしい思ひもあつて二晩か... つて寝ながら讀んだ。 先づ高島氏直接に遭つてあの押し付け... られる様な話し方... と云つては失禮か... ...を讀む内にひしひしと感じて思はず... 微笑を禁じ得ない。寝ながら讀むと云ふ... 事は著者に大變不敬ではあるが誠に寝乍... ら讀むに好適の書物であると私は思つた... 其昔中學生時代に英語の勉強に讀んだイ... ソツパ物語を譯本の方丈を讀む様な氣... 安と親し味を書き至る處に湧く。 讀了して何れともあれ経験が最大の太... 切事だと云ふ事が胸にこたへる。 理屈は後でつけたもので経験が肝要であ... る事は百も承知して居る私達にも今更乍ら... 其感が深い。實業の基礎が経験にある。 キソのナリナカリナリ

を二十年かの學生姿に歸つて思ひ出... す。 著者は話し方を説くけれど學理に實地... に就つた著者の今日の自信あればこそと... 云ひ度い。千葉縣鈴木某氏の上作の秘訣... に對する答に『以前學校出の養蠶教師に... 巡回して貰つた頃はよく腐りましたが八... 十幾つになる祖母の指圖通りにする事に... してからは一向に腐らなくなりました』... の條に至つては思はず成程と云び起きて... 坐り直した様な次第。 巻頭「術よりも實」と説かれてあるが... 其實の元が熱にある事をつけ足して置い

て戴き度かつた。熱！熱！熱！凡てを... とかして揮然一体とする。而して洗れて... 一筋の道を創る。熱なしに何事も成らな... い。感じざらんとするも熱の力を避く可... くもない。話し方ばかりではない、凡そ... ありとあらゆる仕事に従ふものが... とは生きる者が是非に高めて戴き度い... のである。 私には化學の工場に働いて居る。若い諸... 君に其の製造工程は恰度生物を飼ふ積で... ...例へば豚や蠶を飼ふ積で何時の注意... もおろそかにしない様にと。而して育て... あげる親切心を常に強調して居る。書中... 幾度も出て来る聖徳太子の養蠶訓「蠶を... 養ふには父母の赤子を育つるが如くし蠶... を思ふ事我子を思ふ如くせよ」を今更に... 感懐深く思ふ。

此種の本に有勝ちな...と云つては大... 變すまじい様な氣もするけれど...誤字... や誤植の大變に少いのは感心した。流... 石に高島氏の著書であると思ふ。玉研社... もほめ度いが玉研社の印刷所がどんなも... のか少しも知らないから。 門外漢の私が此様な深い感懐で通讀し... たとは著者自身意外に感じられる事と思... ふ。私は此書によつて非常な何かを得... た様に思ふ。話し方や聞き方には大した... 効果は得られなかつたが、又得られても... 其任でない私には使ひ様もないが。 私と同感の人もなと思ふので著者に... 贈する手紙を致にする。 (十五年七月二十日)

暑中御伺申上候 昭利十五年盛夏 福島喜藏 松木隆傳染二號

本會記事

本會日誌
七月十九日 富田勘之丞氏長逝せらるる
七月二十五日 北信支會長の山本技師滿
洲國へ榮轉せらるるに付送別晩餐會を
行ふ
七月三十一日 故上田實氏外五名の御遺
族へ夫々有志財助金贈呈す
八月四日 本會を代表し山形支會長參列せ
らるる
八月五日 千曲時報發行日臨時變更更屆提
出す

向上資金寄附

本會向上資金中へ左記の通り寄附せら
るるに感謝の至りに堪へず、本紙上を
以て受納證に替へ厚く御禮申上ぐる次第
なり
金五圓也 (香掛 久雄氏)
金貳拾圓也 (以上本會取扱)
(以上岐阜支會取扱)

會費領收

昭和十五年度會費金四圓也
(現八月五日)

昭和中尾小太郎(蠶四) 唐木田藤五郎(蠶九)
乾大谷 正(蠶七)
中尾小太郎(蠶五)
中山吉男(蠶五)

叙任辭令

八級停下賜(六月三十日) 菅原 勇治
六級停下賜(五月三十一日) 小野 修二
十級停下賜(六月三十日) 藤 勝四郎
六級停下賜(六月三十日) 寺島 親雄
六級停下賜(六月三十日) 山本 昌三郎
六級停下賜(六月三十日) 門平 潤一郎
六級停下賜(六月三十日) 玉木 勝彰
六級停下賜(六月三十日) 橋本 廣
六級停下賜(六月三十日) 山崎 茂一
六級停下賜(六月三十日) 白井 要範
六級停下賜(六月三十日) 土屋 茂
六級停下賜(六月三十日) 小林 茂
六級停下賜(六月三十日) 小松 茂久
六級停下賜(六月三十日) 小松 二郎
六級停下賜(六月三十日) 菅川 二郎
六級停下賜(六月三十日) 小林 重男
六級停下賜(六月三十日) 小林 重男
六級停下賜(六月三十日) 小林 重男
六級停下賜(六月三十日) 小林 重男

本校辭令

八級停下賜(六月三十日) 菅原 勇治
六級停下賜(五月三十一日) 小野 修二
十級停下賜(六月三十日) 藤 勝四郎
六級停下賜(六月三十日) 寺島 親雄
六級停下賜(六月三十日) 山本 昌三郎
六級停下賜(六月三十日) 門平 潤一郎
六級停下賜(六月三十日) 玉木 勝彰
六級停下賜(六月三十日) 橋本 廣
六級停下賜(六月三十日) 山崎 茂一
六級停下賜(六月三十日) 白井 要範
六級停下賜(六月三十日) 土屋 茂
六級停下賜(六月三十日) 小林 茂
六級停下賜(六月三十日) 小松 茂久
六級停下賜(六月三十日) 小松 二郎
六級停下賜(六月三十日) 菅川 二郎
六級停下賜(六月三十日) 小林 重男
六級停下賜(六月三十日) 小林 重男
六級停下賜(六月三十日) 小林 重男
六級停下賜(六月三十日) 小林 重男

應召會員の通信

横澤 平氏より
業半儀昨秋神戸織造化學工業所經營中事
業の夜に用ひて召集せられ、部員として

再び制覇せる母校柔道部

昭和十五年七月十日午後七時、意氣昂
然として全國高工柔道大會に連覇の榮光

計報

甲慰金募集
故齋藤 大三氏(蠶廿六)
故齋藤 利雄氏(蠶廿二)
故齋藤 清三氏(蠶廿九)
故齋藤 中岡氏(蠶廿二)

甲慰金報告

故植村滿義氏甲慰金
金壹圓也
故植村 寺島
故植村 源一郎
故植村 朝光
故植村 安治
故植村 永島
故植村 文雄

故井田英夫氏遺族より寄附

金拾七圓五拾錢
寄附者 父 井田勝太郎殿

會員動靜 (八月二日)

- 小林 輝一 (蠶二七) (勤) 從前通り (住) 前橋市堀川町四〇
山本 武光 (蠶七四) (勤) 新橋市林田區御崎町一丁目、鐘紡蠶業部 (舊) 東海
橋本 武光 (蠶七四) (勤) 新橋市林田區御崎町一丁目、鐘紡蠶業部 (舊) 東海
宮崎 貞三 (蠶四一) (勤) 長野縣西筑摩郡福島町、長野縣立木曾高等女學校
小宮 貞三 (蠶四一) (勤) 長野縣西筑摩郡福島町、長野縣立木曾高等女學校
若林 榮 (蠶九一) (勤) 宮崎縣伊具町、宮崎縣伊具農林學校 (舊) 新潟支會
池内 眞吾 (蠶一九) (勤) 宮崎縣伊具町、宮崎縣伊具農林學校 (舊) 新潟支會
清水 洗 (蠶二〇) (勤) 宮崎縣伊具町、宮崎縣伊具農林學校 (舊) 新潟支會
小林 輝夫 (蠶二一) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
百瀬 正一 (蠶二二) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
石塚 正一 (蠶二二) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
吉池 五郎 (蠶二二) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
森山 忠正 (蠶二二) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
多田 高行 (蠶二四) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
小柳 源一 (蠶二四) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
塚田 典次 (蠶二五) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
清水 良一 (蠶二五) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
中西 全 (蠶二五) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
土屋 武美 (蠶二六) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
山口 正明 (蠶二六) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
三浦 重雄 (蠶二七) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
川船 卓爾 (蠶二七) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
井上 保雄 (蠶三三) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
井上 達人 (蠶三五) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
吉賀 哲雄 (蠶三八) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
關 三郎 (蠶三八) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
富岡 正男 (蠶三九) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
武川 勇 (蠶三九) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
山本 金之助 (蠶三九) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
石井 清六 (蠶三九) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
横澤 平 (蠶三九) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
林田 義雄 (蠶三九) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
小管 眞三 (蠶三九) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
山寺 眞三 (蠶三九) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
笹川 嘉隆 (蠶三七) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
金子 梓朗 (蠶三七) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
江野村 一雄 (蠶三七) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
北宮 太郎 (蠶一八) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城
荻原 正次 (蠶一八) (勤) 茨城縣結城郡結城町、茨城縣立結城農學校 (住) 結城

信濃路の旅に！
善光寺詣りに！
母校訪問の折に！

清流千曲川畔
戸倉温泉
千曲會指定旅館

笹屋ホテル
電話 一〇三三番 (別館)
電話 一〇三三番 (別館)
電話 一〇三三番 (別館)

御入信の節は
何卒御光來を！
上山田温泉
千曲會指定旅館
清風園
電話 上山田代表 五六番
電話 上山田 一三六番
電話 別館 上山田 一四番

別所温泉
千曲會指定旅館

花屋ホテル
電話 一三三番

柏屋別荘
電話 一二三番
茶代廢止

千曲會指定旅館
信州戸倉温泉
上田館
電話 戸倉 二七番
信州上山田温泉
家庭風呂
浴室付別荘
圓山莊
電話 上山田 一〇九番
電話 戸倉 七五番

編輯室より

こんな氣候で好いのか知らんと怪し
ました程の涼さで近郊遊歩の客が
どきどきとたつた。今更さのぶり返し
だ。此所暫らく一幸棒か。
△今年度より新設された母校繊維化學
課程の學科課程を漸く掲載し得た。この
網羅の各科目に於て、他の幾多の製絲
たことを附言して置く。
△校友會柔道部は已に全國高工柔道大
會に於て二年連続を成し遂げたが、他
の各部に於ては夫々大會或は對校試合
に備へて合宿練習等を開始した。
△生産部門の擴充は工業方面の人物
的均衡を破つて豫算に縛られた優遇不
可能の方面を破つて、人の需要に陥
つてゐるがそれでは、人のだらうか。
△來月から下級官吏に家族手当が出る
と言ふ。洵に時宜を得た策と喜ぶたい
が、然し扶養者こそ持たないが、同じ
も、勞務能率を擧げてゐる所謂消費官
公吏は何んな策を當てにしてゐたら好
い。
△刊行物も防禦方面から紙資源方面か
ら益々難事になりさうである。今月號
は、先月號が平均紙数を超過した代り
に、少紙數にせざるを得なかつた事を御
諒承願ひたい。
昭和十五年八月十日
千曲時報編輯部
町 田 忠 一 郎

優良蠶種御案内
◎昭和十五年秋、晚秋蠶種
(冷浸並に即浸)
日一一五號×支一〇八號
日一一一號×支一一二號
◎昭和十六年春蠶種
支二〇號×支一〇九號
日一九號×支一〇八號
日一一四號×支一〇八號
廣島縣御所郡奥村字綾目
蠶種業 小川 保
電話 市村局十一番 甲本種部
電話 廣島 二四六番
電話 大阪 二〇七三番
◎電報市村局別便配達料不要